

平成26年度 公益財団法人宇都宮市医療保健事業団事業報告

<事業概要>

平成26年度は、公益財団法人の認定から3年目となり、これまでの経験を十分に活かしながら事業計画に基づき、各部門とも積極的に事業を推進し、地域住民の公益の増進に貢献しました。

夜間休日救急診療所部門においては、急病患者の初期救急医療を主たる目的とし、宇都宮市の指定管理者として宇都宮市医師会、宇都宮市歯科医師会及び宇都宮市薬剤師会の協力のもとに管理運営をしており、年末年始やインフルエンザ流行期等については患者の状況に応じ、初期救急医療体制を適切に確保し、安全・安心な医療サービスの提供に努めるとともに、「救急医療の適正受診」等についての啓発活動を積極的に実施いたしました。平成26年度の患者数については、延べ38,339人、前年度比714人の減となりました。

健診センター部門においては、疾病の早期発見を図るための各種健康診断の実施など、地域住民の健康維持・増進に向け事業を推進してまいりました。事業所健診は、ほぼ前年並みの実績となり、住民健診においては、婦人科検診の受診無料クーポン券の利用が拡大されたことなどにより、乳がん・子宮がん検診の受診者や地区巡回健診の受診者が増加し、住民健診全体では、前年度比9.0%の増の実施で、平成26年度の健康診断受診者の総件数については、前年度比2.7%増の延べ105,274件となりました。また、事業開始3年目となる普及・啓発活動では、健診センター所長と自転車のプロ競技団体による生活習慣病予防に関するトークショーを開催し、地域住民の疾病予防や健康に関する知識の向上を図ったほか、横断幕やラジオ等様々な媒体を活用して各種健診の受診率向上に努めるとともに、事業所健診の検査結果等を基に、受診者の生活改善に役立つ健康教室等を開催し、積極的に健康診断後のフォローに努めました。また、リスクマネジメントの推進や個人情報保護対策の徹底を図り、事故防止の意識を高めるとともに、個人情報の適正管理に努めました。

准看護高等専修学校及び歯科衛生士専門学校部門においては、地域保健医療への貢献が期待される有能な人材を育成するため、教育環境や教育内容などの充実を図るとともに、新年度の入学生を確保するため、進学相談会への参加や学校見学会等を実施しました。また、資格取得の支援及び就業支援に力を入れ、地域医療の担い手として准看護師及び歯科衛生士を地域の医療機関等へ輩出いたしました。

1 夜間休日救急診療所部門

当診療所は、急病患者の応急処置を主たる目的として、夜間や休日等の初期救急医療を確保するため、当事業団が宇都宮市の指定管理者として宇都宮市医師会、宇都宮市歯科医師会及び宇都宮市薬剤師会の協力のもと管理運営しております。診療は、毎夜間と日曜祝日の昼間に実施し、特に患者が増加するゴールデンウィーク、旧盆、年末年始の繁忙期やインフルエンザの流行期などについては、前年度までの患者実績に合わせてスタッフを配置しました。

平成 26 年度の診療所実施状況については、昼間診療を 74 日、夜間診療（準夜・深夜）を 365 日実施し、総患者数は前年度比 714 人減の延べ 38,339 人となりました。

(1) 実施状況

ア 診療日、診療時間、開設日数

区 分	診療科	診 療 日	診 療 時 間	開設日数
昼 間	医科 歯科	日曜、祝日、国民の休日	午前9時～午後5時	74日
		旧盆(8/13, 14, 15)		
		年末年始(12/30～1/3)		
夜 間	医科	毎日	午後7時30分～翌朝午前7時	365日
	歯科	毎日	午後7時30分～午前0時	

イ スタッフ動員数

(単位:人)

区 分	医 師	歯 科 医 師	薬剤師	看護師	衛生士	事務員	合 計	前年度比較	
								動員数	増減
昼 間	244	87	170	344	100	323	1,268	1,268	0
準 夜	822	381	469	1,224	397	881	4,174	4,167	7
深 夜	730	—	365	730	—	365	2,190	2,190	0
合 計	1,796	468	1,004	2,298	497	1,569	7,632	7,625	7
前年度	1,795	471	1,004	2,293	503	1,559	7,625		
増 減	1	△ 3	0	5	△ 6	10	7		

ウ 医科患者利用状況

医科における患者数については年度当初から減少傾向で推移し、総患者数は前年度比 502 人減の 34,974 人となりました。

一方、インフルエンザは 12 月から流行期に入り、年末年始にピークを迎え 1 月までは多くの患者が来所しました。インフルエンザ患者数は前年度比 1,370 人増の 4,176 人でした。

①医科月別受診者数

(単位：人)

区 分		26年									27年			合 計	前年度比較	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		日 数	増減
															患者数	
昼 間	日数	5	7	5	5	8	6	5	7	7	8	5	6	74	74	0
	患者数	623	1,137	442	626	886	671	450	960	1,991	2,812	833	824	12,255	12,017	238
	1日平均	124.6	162.4	88.4	125.2	110.8	111.8	90.0	137.1	284.4	351.5	166.6	137.3	165.6	162.4	3.2
夜 間	日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365	0
	患者数	1,197	1,327	1,030	1,255	1,337	1,103	965	1,242	2,085	2,400	1,217	1,230	16,388	16,974	△ 586
	1日平均	39.9	42.8	34.3	40.5	43.1	36.8	31.1	41.4	67.3	77.4	43.5	39.7	44.9	46.5	△ 1.6
	患者数	443	548	456	552	558	467	419	475	788	732	466	427	6,331	6,485	△ 154
	1日平均	14.8	17.7	15.2	17.8	18.0	15.6	13.5	15.8	25.4	23.6	16.6	13.8	17.3	17.8	△ 0.5
合 計		2,263	3,012	1,928	2,433	2,781	2,241	1,834	2,677	4,864	5,944	2,516	2,481	34,974	35,476	△ 502
前年度		2,350	3,286	2,033	2,469	2,819	2,481	1,997	2,505	4,204	4,465	3,330	3,537	35,476		
増 減		△ 87	△ 274	△ 105	△ 36	△ 38	△ 240	△ 163	172	660	1,479	△ 814	△ 1,056	△ 502		

②医科患者転送状況

(単位：人)

区 分	帰宅	転送	合計
患者数	34,201	773	34,974
構成比	97.8%	2.2%	100%
前年度	34,690	786	35,476
増 減	△ 489	△ 13	△ 502

③転送機関別内訳

(単位：人)

区分	後方2次病院					後方1.5次病院					獨 協	自 治	その他	合 計
	済生会	NHO栃	宇社保	宇記念	NHO宇	済生会	宇記念	柴	高 橋	宇 東				
転送数	416	102	58	96	15	6	5	0	1	2	23	15	34	773
構成比	53.8%	13.2%	7.5%	12.4%	1.9%	0.8%	0.7%	0.0%	0.1%	0.3%	3.0%	1.9%	4.4%	100%
前年度	477	98	52	38	19	15	0	0	1	2	34	15	35	786
増 減	△ 61	4	6	58	△ 4	△ 9	5	0	0	0	△ 11	0	△ 1	△ 13

エ 歯科患者利用状況

歯科においては、年間を通して患者数が減少傾向で推移し、前年度比 212 人減の 3,365 人となりました。

①歯科月別受診者数

(単位：人)

区 分		26年												合 計	前年度比較	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		日数	比 較
															患者数	増 減
昼 間	日数	5	7	5	5	8	6	5	7	7	8	5	6	74	74	0
	患者数	46	132	45	48	126	61	59	75	157	207	58	58	1,072	1,275	△ 203
	1日平均	9.2	18.9	9.0	9.6	15.8	10.2	11.8	10.7	22.4	25.9	11.6	9.7	14.5	17.2	△ 2.7
夜 間	日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365	0
	患者数	171	211	158	203	225	190	182	189	242	169	153	200	2,293	2,302	△ 9
	1日平均	5.7	6.8	5.3	6.5	7.3	6.3	5.9	6.3	7.8	5.5	5.5	6.5	6.3	6.3	0
合 計		217	343	203	251	351	251	241	264	399	376	211	258	3,365	3,577	△ 212
前年度		251	367	235	282	343	253	246	272	478	416	184	250	3,577		
増 減		△ 34	△ 24	△ 32	△ 31	8	△ 2	△ 5	△ 8	△ 79	△ 40	27	8	△ 212		

②歯科患者転送状況 (単位：人)

区 分	帰 宅	転 送	合 計
患者数	3,337	28	3,365
構成比	99.2%	0.8%	100%
前年度	3,545	32	3,577
増 減	△ 208	△ 4	△ 212

③転送機関別内訳 (単位：人)

区 分	NHO栃木	獨 協	自 治	その他	合 計
転送数	6	17	5	0	28
構成比	21.4%	60.7%	17.9%	0.0%	100%
前年度	8	20	4	0	32
増 減	△ 2	△ 3	1	0	△ 4

(2) 診療体制

地域住民の要望にそった初期救急としての診療体制を充実するため、関係医療機関との連携を図るとともに必要な人員の確保に努めました。

ア 医師の安定確保を目指し、派遣協力医療機関との連携を強化しました。

イ 後方病院並びに後方支援病院を始め協力医療機関との連携を深め、円滑な患者の転送に取り組みました。

ウ 患者の受入実績及び繁忙状況等を踏まえた上でスタッフの充実を図りました。特にゴールデンウィーク、旧盆、年末年始の繁忙期やインフルエンザ流行期における患者増に対して医師、歯科医師、薬剤師等スタッフを増員し円滑な診療を行うための診療体制の強化に努めました。

エ 医療サービス向上のため、年4回（4月、7月、12月、3月）看護師、歯科衛生士、事務員を対象に繁忙期の診療体制の確認、緊急時の対応、医療機器の取扱等の研修を実施しました。

また、薬剤師を対象とした研修も実施し、円滑な薬局業務のための課題検討や情報の共有化を進めました。

(3) 普及・啓発活動

地域住民に対し救急医療の理解と健康に対する知識の普及を図るため、以下の取り組みを実施しました。

ア 親子学級などにおける啓発活動

妊婦やその夫を対象に市保健センターで開催される「ママパパ学級」において、救急医療の適正受診についてのチラシの配付や、口頭による夜間休日救急診療所の適切な利用の仕方について案内を行いました。

イ メディアを通じた啓発活動

ゴールデンウィーク、旧盆、年末年始における夜間休日救急診療所の受診の仕方や季節の節目における健康に関するワンポイントアドバイスをラジオで放送しました。

また、新聞折り込み掲載による啓発活動を年2回（7月、11月）実施しました。

ウ 公共機関等で啓発資料を配布

子どもを持つ保護者を対象に、夜間休日救急診療所の受診の仕方や症状に応じた対処法のチラシを4ヶ月児健診時（市保健師訪問指導）や子育てサロンに配付しました。

2 健診センター部門

公益財団法人として、引き続き地域住民の健康維持・増進のため普及啓発活動などの公益を目的とした各種事業を積極的に推進しました。

健診事業については、事業所健診、住民健診がともに前年度を上回り、健診事業全体で105,274件を実施しました。

健康支援事業では乳がん検診受診者の増加に伴い、その他の事後支援事業のうち検診後の乳がん自己視触診指導が増となったことから前年度を大きく上回り、健康支援事業全体で3,219件を実施しました。

また、リスクマネジメントを組織的に推進するなど、精度管理や安全管理を徹底し、市民が安心して受診できる健診環境の向上に努めました。

(1) 実施状況

健診受診者数

(単位:件)

健康診断種別		平成26年度		平成25年度		増 減	
			構成比(%)		構成比(%)		増減率(%)
ア 事業所健診	定期健康診断	22,682	21.6	22,797	22.2	△ 115	△ 0.5
	生活習慣病予防健診	11,385	10.8	11,357	11.1	28	0.2
	人間ドック	1,512	1.4	1,551	1.5	△ 39	△ 2.5
	特殊健康診断	3,103	2.9	2,756	2.7	347	12.6
	結核検診	4,912	4.7	4,544	4.4	368	8.1
	その他の健診	2,192	2.1	2,254	2.2	△ 62	△ 2.8
	小 計	45,786	43.5	45,259	44.1	527	1.2
イ 住民健診	節 目 健 診	3,110	3.0	3,068	3.0	42	1.4
	地 区 健 診	8,452	8.0	8,466	8.3	△ 14	△ 0.2
	地 区 巡 回 健 診	6,923	6.6	5,796	5.7	1,127	19.4
	乳 が ん 巡 回 健 診	4,125	3.9	3,515	3.4	610	17.4
	子 宮 が ん 巡 回 健 診	4,216	4.0	3,520	3.4	696	19.8
	特定健康診査単独	156	0.1	136	0.1	20	14.7
	結 核 検 診	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	個別マンモグラフィ検診	2,683	2.6	2,256	2.2	427	18.9
	婦 人 科 検 診	0	0.0	468	0.5	△ 468	△ 100.0
	小 計	29,665	28.2	27,225	26.6	2,440	9.0
ウ 子ども健診	心 臓 検 診	14,481	13.8	14,560	14.2	△ 79	△ 0.5
	結 核 検 診	5,188	4.9	5,480	5.3	△ 292	△ 5.3
	その他の健診	10,154	9.6	10,007	9.8	147	1.5
	小 計	29,823	28.3	30,047	29.3	△ 224	△ 0.7
合 計		105,274	100.0	102,531	100.0	2,743	2.7

エ 健康支援事業利用者数

(単位:件)

保健指導区分	平成26年度		平成25年度		増 減	
		構成比(%)		構成比(%)		増減率(%)
特 定 保 健 指 導	222	6.9	239	8.6	△ 17	△ 7.1
その他の事後支援事業	2,997	93.1	2,548	91.4	449	17.6
合 計	3,219	100.0	2,787	100.0	432	15.5

ア 事業所健診

事業所健診は、法改正で新たに特定化学物質に指定された物質が追加されたことにより、有機溶剤、特定化学物質等を取り扱う事業所の特殊健康診断が増加となったことや、市内医療機関等を対象とした結核検診において、委託先が増加したことにより、ともに前年度を上回りました。

一方、小規模事業所を対象とする定期健康診断の受診者数は、近年減少傾向にありますが、協会けんぽ加入事業所が主な対象となる生活習慣病予防健診や事業団施設における人間ドックは顧客サービスの向上に努め、ほぼ前年度並を確保するなど、事業所健診全体では、前年度比 527 件増の 45,786 件を実施しました。

イ 住民健診

住民健診は、平成 24 年度から開始した乳がん・子宮がん巡回健診が市民に定着し、また、身近な地区巡回健診の会場で特定健診と各種がん検診等が同日のうちに受診できることが広く市民に周知され、前年度に引続き受診者数が増加傾向で推移しました。

さらに、本年度は、婦人科検診受診率向上を目的とした無料クーポン券の利用拡大等により、各種婦人科検診の受診者数が前年度を大きく上回りました。

また、早朝健診及び協会けんぽとのタイアップ健診等を前年度に引き続き実施し、市と連携して市民のニーズに対応するなど、住民健診全体では前年度比 2,440 件増の 29,665 件を実施しました。

ウ 子ども健診

子ども健診のうち、市内小学校 1 年生、4 年生及び中学校 1 年生の児童・生徒を対象とした学校心臓検診は、ほぼ前年度並の 14,481 件の実施となりました。

また、結核検診は、対象学校の児童・生徒・学生数が減少したため実施件数も減少しました。

一方、幼稚園・保育園児を対象とした尿検査や寄生虫卵検査等のその他の健診は、委託先からの依頼件数が増加したことなどにより、前年度を上回りましたが、子ども健診全体では、前年度比 224 件減の 29,823 件の実施となりました。

エ 健康支援事業

特定保健指導は、事業開始以来、対象者の関心が薄く希望者も少ないため、低い水準で推移しており、前年度比 17 件減の 222 件の実施となりました。

その他の事後支援事業では、乳がん検診受診者を対象に実施する自己視触診指導において、乳がん検診受診者が無料クーポン券利用拡大等により大幅に増加したことに伴い、実施者数が前年度の実績を大きく上回ったため、健康支援事業全体では、前年度比 432 件増の 3,219 件の実施となりました。

(2) 地域の健康づくりに関する情報収集・情報発信

平成 25 年度の宇都宮市国民健康保険組合員及びその被扶養者に対する特定健康診査の健診結果のうち、メタボリックシンドローム判定、特定保健指導レベル判定、検査項目別判定及び血液検査判定について分析し、その結果を宇都宮市に提供しました。

(3) 普及・啓発活動

ア 健康教育及び健康指導

- ① 保健師や管理栄養士が宇都宮市内の事業所に出向いて事業所の要望に応じたテーマで講義や指導を行い、従業員の健康意識向上に努めました。

※ 4月24日、25日：下野新聞社、5月17日、10月4日：小平興業、6月21日：宇都宮塗料、11月7日、14日、21日：東一宇都宮青果、11月19日、20日：オートテックジャパン

- ② 市内小中学校児童・生徒を対象に実施した平成26年度心臓検診の結果データを基に統計資料を作成し、平成27年4月に開催される養護教員研修会で報告することとしました。

イ 各種健診の受診率向上への取り組み

- ① 9月「がん征圧月間」、10月「乳がんピンクリボン運動月間」、11月「糖尿病予防月間」、1月「高血圧予防」、2月「生活習慣病予防月間」において横断幕やボード等を事業団建物や検診車両に掲示し、広く市民へ周知しました。また、その他の月においては「健診受診勧奨」のボードを検診車両に掲示し、健診の受診率アップに努めました。

- ② 平成26年9月13日、14日、宇都宮城址公園を会場に開催された、日本対がん協会主催のがん患者支援チャリティーイベント「リレーフォーライフ」に参加し、職員が横断幕を掲げ行進し、がん検診の重要性についてPRし、検診の受診勧奨を行いました。

- ③ 平成26年11月9日、市が主催する「食育フェア」に参加し、保健師と管理栄養士が「野菜」に関するテーマで、野菜嫌いな方のために上手な野菜の摂り方などを指導するほか、来場者と一緒にキーホルダーの作成体験を行うなど、市民の健康意識の向上を図るとともに健診の受診率アップに努めました。

ウ 講演会の開催

平成27年3月7日、FKDインターパーク店において、健診センター所長とロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」による生活習慣病予防に関するトークショーを開催し、地域住民の疾病予防や健康に関する知識の向上を図りました。

エ 健康冊子の配布及びホームページでの掲載

保健師が乳がん、大腸がん等の健康に関するテーマ8項目でリーフレットを作成し、市内の事業所等に配布するとともに、うち4項目を事業団ホームページに掲載して広く市民に健康情報を提供しました。

※ テーマ：「特定保健指導を受けましょう」、「食中毒予防に注意しましょう」、「脱出しようロコモティブシンドローム」、「うつ病について知っていますか?」、「胃の検査の種類」、「肺の検査の種類」、「乳房の検査の種類」、「大腸の検査の種類」

オ メディアを通じた普及啓発活動

地域住民が健康について考えるきっかけとなるよう、各種疾病や健康に関する予防月間等の際にその意義や予防について栃木放送と下野新聞を通じて広く市民に周知しました。

※ 栃木放送

4月「健康診断受診勧奨」、5月「大腸がん検診」、6月「禁煙」、7月「前立腺がん検診」、8月「胃がん検診」、9月「がん征圧」、10月「乳がん検診」、11月「糖尿病予防」、12月「飲酒」、1月「血圧」、2月「生活習慣病予防」、3月「子

宮頸がん検診」

※ 下野新聞

6月「禁煙」、9月「がん征圧」、10月「乳がん検診」、11月「糖尿病予防」、
1月「生活習慣病予防」、3月「子宮頸がん検診」

(4) 精度管理

ア 健診スタッフの技術の向上

全国労働衛生団体連合会や人間ドック学会等が主催する各種の学会、研修会に保健師、看護師、検査技師、X線技師等の職員を参加させ、資質技術の向上に努めました。

イ 内部精度管理の充実

日常的に使用する各種検査機器が確実に稼動し、正確なデータを確保できるよう日々の始業点検や保守点検を徹底するとともに、再現性の検証等を定期的の実施しました。

ウ 外部精度管理への参加

全国労働衛生団体連合会が主催するX線検査、血液検体検査、労働衛生検査及びマンモグラフィ精度管理中央委員会が主催するマンモグラフィ検査の外部精度管理事業に参加し、各種検査の精度向上に努めました。

(5) 安全管理

ア リスクマネジメントの推進

健診業務におけるヒヤリハット事例の原因分析、防止対策等を組織的に検討し、その結果を職員及びスタッフへ周知し、事故防止への意識昂揚を図り、安心・安全な健診の実施に努めました。

イ 個人情報保護対策の強化

重要な個人情報を取り扱う健診機関として、健診受診票等帳票類や検査データ等の個人情報文書類を安全かつ適切に管理するため、情報処理室への入退室管理の徹底を図るなど、個人情報の適正管理に努めました。

(6) 第3者認証の継続

平成26年度に更新した全国労働衛生団体連合会が主催する「労働衛生サービス機能評価」の認証を継続するため、年度末に自主監査を行い、サービス機能が適切に実施・維持されているか自ら評価することにより、公益財団法人の健診機関としての信頼性の確保を図りました。

(7) 健診システムの改修

通常業務に支障をきたさないよう、年末年始の休日を利用して健診システムの改修にともなう機器類の設置を行い新年度へのスムーズな移行が行えるよう準備を整えました。

(8) 肺がん・胃がん二重読影会におけるモニター読影の実施

肺がん及び胃がん二重読影会において、3台整備したデジタルモニターにより、同検診実施医療機関のデジタル化に対応することができ、市医師会と事業団が一体となって市民の健康維持・増進に貢献することができました。

3 准看護高等専修学校部門

准看護師として地域の保健医療を担う有能な人材を育成するために、教育器材及びシミュレーション器材等の更新を行い、教育環境の充実を図るとともに、教員を各種教育研修会に参加させるなど指導体制の強化に努めました。

2年生については、地域医療機関への就業支援を行い、看護師としての進路が決定できるよう支援しました。

生徒の確保については、新たに市内福祉施設に入学募集要項を配布するなど広報活動の強化に努めました。

(1) 教育実施状況

学 年	生 徒 数 26年4月 (人)	教育科目（座学講義）					臨地実習		教育実施 時間合計 (時間)
		基 礎 科 目	専門基礎 科 目	専 門 科 目	合 計	講師数	実 習 時 間	実 習 施 設	
		国 語 外 国 語 音 楽 そ の 他	人体の仕組み と働き 食生活と栄養 薬物と看護 そ の 他	基礎看護 成人看護 老年看護 母子看護 精神看護					
1 年 生	41	94	287	398	779	46	309	16	1, 088
2 年 生	41	11	103	270	384		430		814
合 計	82	105	390	668	1, 163	46	739	16	1, 902

(2) 生徒確保対策の強化

ア 県内在校生及び卒業生出身校の訪問（県立高5校 私立3校）

イ 学校見学会の実施（4回、参加者総数 36名）

- ・ 平日2回（現役高校生が主な対象）
- ・ 休日2回（社会人が主な対象）

ウ 広報活動の充実

- ・ 携帯アクセスサイト「ベスト進学ネット」への掲載（資料請求202件）
- ・ ホームページへの掲示
- ・ 宇都宮市広報紙掲載2回（11月号・2月号）
- ・ 平成27年度募集要項作成、医療機関・市内福祉施設・県内高等学校への送付
- ・ フリーペーパー「トチペ」「リビングマロニエ」「栃木毎日」への募集広告掲載
- ・ 進学情報誌「さんぽう」、「照栄広報」、「教育弘報研究所」出版へのアンケート協力により学校案内の掲載

- ・ 入学案内のポスター，パンフレット作成，医療機関での掲示依頼
- ・ 自動車教習所等若者の集まる場所へのポスター掲示依頼

エ 推薦入学制度の実施（高校生，社会人）

推薦入試受験者 6名（高校生 4，社会人 2）， 合格者 6名

(3) 教育環境の充実

ア 教育器材の整備

- ・ ブラウン管テレビを液晶テレビに更新（2台）
- ・ 静脈注射シミュレーターの更新

イ 学校図書の充実

図書の整備，充実（臨床実習に即した参考図書を増冊）

(4) 教育内容の充実

ア 専任教員の資質の向上

- ・ 出版社主催看護教員対象セミナー(3名)
- ・ 栃木県看護系教員協議会研修会(3名)
- ・ 日本看護学会学術集会（開催地：新潟市2名）
- ・ 研修報告会の開催

イ 講師及び実習指導者との円滑な連携の推進

- ・ 実習指導者会議
- ・ 実習引率
- ・ 各基礎実習施設巡回及び反省会への出席

(5) 実践活動の充実

ア 校外研修（解剖見学・高齢者とのふれあい体験，研修旅行等）の実施

イ 1・2年生の合同宿泊研修の実施（とちぎ海浜自然の家）

(6) 地域医療機関への就業支援

ア 生徒の特性と就業希望施設の不マッチを予防するための相談及び指導

イ 進学相談

(7) 1年生の状況

	人 数	備 考
生徒数	41	入学者 41名（受験者数 64名，競争率 1.56倍）
進路変更等	6	進路変更 5名 休学 1名
進級者	35	

(8) 2年生の状況

	人 数	備 考
卒業生	36	
うち准看護師試験合格者	36	合格率 100%
卒業生の進路		
看護師学校進学者	11	進学率 30.6%
看護師学校進学兼就職者	12	進学兼就職率 33.3%
医療機関就職者	11	就職率 30.6%
進学準備等	2	
合 計	36	

(9) 平成27年度生の募集状況

試験科目…………… 国語，一般教養，作文，適性検査，面接

	試 験 日	受験者数	合格者数 (入学者数)	競争率
推 薦 入 試	平成26年10月23日 (一般教養・面接)	6	6(6)	
一般入試(第1回)	平成26年11月25日 (学科・面接)	32	25(20)	
一般入試(第2回)	平成27年 2月25日 (学科・面接)	12	11(9)	
合 計		50	42(35)	1.19

※ 平成27年度入学生 35名

4 歯科衛生士専門学校部門

歯科衛生士として時代の要請に応える知識や技術を修得させ、口腔衛生の向上に資する有能な人材を養成するため、講師及び臨床実習指導教員との連携強化を図り指導の強化に努めるとともに、教育器材及び学校図書の整備を行うなど、教育環境の充実を図りました。

また、3年制教育移行後の新たな授業計画に基づく講義を継続するとともに、大学病院・介護施設での実習等を実施するなど、実習体制の充実を図りました。

3年生については、地域医療機関への就業支援を行い、歯科衛生士としての進路が決定できるよう支援しました。

学生の確保については、市内医療機関の他、卒業生が勤務する市外の医療機関等に募集案内のポルター掲示を依頼するなど、広報活動の強化に努めました。

(1) 教育実施状況

学 年	人 数 26年4月 (人)	教育科目（座学講義）					
		基礎分野	専門基礎分野	専門分野	選択・必修分野	合 計	講師数
		英語 生物 心理学 その他	解剖学 組織発生学 生理学 生化学 歯牙解剖学 病理学 薬理学 その他	歯科衛生士概論 歯科臨床概論 保存修復歯内療法 歯科補綴学 歯周保存療法 口腔外科学 その他	情報処理 社会人マナー 耳鼻科 内科 小児科		
		(時間)	(時間)	(時間)	(時間)	(時間)	(人)
1年生	50	60	285	525	0	870	29
2年生	50	45	15	45	45	150	10
3年生	46	45	75	284	90	494	14
合 計	146	150	375	854	135	1,514	53

臨床実習		施設臨床実習 介護施設実習		教 育 実 施 時 間 合 計 (時間)
実 習 時 間 (時間)	実 習 施 設 (機関)	実 習 時 間 (時間)	実 習 施 設 (機関)	
—	—	—	—	870
720	35	—	—	870
270		36	5	800
990	35	36	5	2,540

(2) 学生確保対策の強化

ア オープンキャンパスの実施（4回）

- ・ 平日2回、休日2回で実施

イ 広報活動の充実

- ・ 宇都宮市広報紙掲載2回（10月、12月）
- ・ インターネットによる学生募集の広報
- ・ 宇都宮市内の全中学校にポスターを送付
- ・ 卒業生が勤務している市外歯科医院への学生募集ポスターの掲示
- ・ 実習施設等への学生募集ポスターの掲示

ウ 進路相談会への参加

- ・ 栄美通信主催進学相談会参加
- ・ 栃木県内学校進学相談会参加

エ 推薦指定校訪問

(3) 教育環境の充実

ア 学校図書室の床張り替え

イ 教育用機材の充実

- ・ 実習用実験機の追加設置
- ・ 位相差顕微鏡（マイクロスコープ）の購入

(4) 教育内容の充実

ア 専任教員の資質の向上

- ・ 歯科衛生士専任教員研修会Ⅰへの参加（5日間、1名）

イ 講師及び指導教員との円滑な連携の推進

- ・ 講師指導教員打合会を開催し、指導教員と実習内容について協議（参加人数 103名）

(5) 実践活動の充実

ア フッ化物塗布事業、歯の健康教室への参加

イ 特別講義の実施

- ・ 「病院実習における心構え」「シャープニング」「音波ブラシの使い方」「病院歯科における歯科衛生士の役割」等の実施

(6) 地域医療機関への就業支援

- ・ 歯科衛生士の資格を習得させ、地域の医療機関等へ就業させることにより地域医療従事者の提供体制の充実に務めました。
- ・ 11月より就業支援を行い、希望者44名全員が就職しました。

(7) 1年生（第37期生）の状況

	人数	備 考
学生数	50	受験者数 59 名 （競争率 1.18 倍）
進路変更等	3	退学者数 3 名
進級者	47	

(8) 2年生(第36期生)の状況

	人数	備 考
学生数	50	
進路変更等	0	
進級者	50	

(9) 3年生(第35期生)の状況

	人数	備 考
卒業生	46	
内歯科衛生士国家試験合格者	42	合格率 91.3%
卒業生の進路		
医療機関就職者(歯科衛生士)	41	就職希望者 44 名 (就職率 100.0%)
医療機関就職者(歯科助手)	3	
その他	2	
合 計	46	

(10) 平成27年度入学生の募集状況

試験科目…………… 国語総合、適性検査、面接

試験区分	試 験 日	受験者数	合格者数 (入学者数)	競争率
A O 入 試	平成26年 9月28日	15	14 (14)	
推 薦 ・ 特 別 入 学	平成26年10月23日	22	22 (22)	
一 般 入 学	平成27年 1月15日	12	11 (6)	
一般入学(2 次)	平成27年 2月15日	2	2 (2)	
一般入学(3 次)	平成27年 3月22日	0	0 (0)	
合 計		51	49 (44)	1.04

※ 入学定員 50名

※ 平成27年度入学生 44名

※ AO入試(アドミッションズ・オフィスの略)

論文や面接から志願者の意欲や個性などを測り、学校が求める学生像に合った入学生を選抜する。